



砧地区委員会

だより

青少年砧地区委員会

で検索！

事務局：砧まちづくりセンター

03-3417-3405

03-5494-7016

第22回「砧ラリー」開催しました！！

11月13日(土)、爽やかな秋晴れのもと青少年砧地区委員会3大イベントのひとつ「砧ラリー」を3年ぶりに開催しました。砧ラリーは大蔵運動公園と砧公園を広く使い、家族やお友だちと一緒に秋を感じながら9つのゲームポイントを回って楽しむイベントです。



開会式のあと、スタンプカードを持ってラリー開始！「万歩計レース」や「ストラックアウト」で体を動かし、「キムスゲーム」や「23区イズ」で頭を働かせ、「バードウォッチング」では野鳥クイズをしたあとにバードサンクチュアリで砧公園の野鳥が観察できます。ほかにも砧ラリーならではのゲームポイントでみんな楽しんでいました。

それぞれのポイントで仲間と協力したり、競い合ったりもします。地図を見ながら公園内をあちこち歩きまわりゲームポイントを探している様子が微笑ましかったです。ゴールで最後のスタンプとお土産のお菓子を受け取った子どもたちは大満足。スタッフも大満足で終わることができました。

協力団体の皆様、ありがとうございました。



ゴールでは山野太鼓の演奏♪

この砧ラリーにはたくさんの応募をいただきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策で参加チームを制限したため抽選となりました。参加できなかった皆様申し訳ございませんでした。来年度は制限なく開催できることを願っています。

青少年砧地区委員行事部長 前園 陽子



山野児童館「ほんぽこむらまつり」3年ぶりの開催！！



10月16日(日)世田谷区立山野児童館にて、3年ぶりに「ほんぽこむらまつり」が開催されました。といっても、まだまだコロナ禍のため「以前と同じように」というわけではありません。開催時間も短縮し、一度にたくさんの人が集まらないように工夫をして実施していました。

館内は子どもたちが運営するお店、屋外は大人たちが運営する「紙芝居」「人形劇」「紙ひこうき」「キラキラバッジ」などのお店で行う「ほんぽこむらまつり」です。

例年大人気の「焼きそば」や「たこ焼き」などの食べ物のお店はありません。それでも、3年ぶりのおまつりの開催は、大人も子どももみんな嬉しい！！「青少年砧地区委員会」では「コーヒー&ジュースコーナー」を担当しました。



おまつり開始前に、地区委員の福島さんがネルドリップの実演をしてくれました。みんな真剣に見つめていました⁶⁶

「ネルドリップ」の本格派コーヒーを、なんと、たったの50円で(!!)皆さまに提供させていただきました。お子さん向けには「ジュース」を販売いたしました。

午前1時間、午後1時間の、あつという間の短い時間でしたが、今年、開館40周年を迎えた山野児童館には、たくさんの笑顔が広がりました。来年もまた「青少年砧地区委員会ネルドリップコーヒー隊」の出動要請があるといいなあ。

青少年砧地区委員広報部 松原 利枝

第2回研修会報告

冬というにはまだ少し暖かい11月29日(火)に山野区民集会所にて、第2回地区委員会研修会を開催しました。

今回のテーマは【ヤングケアラー当事者の人生から考える支援の方法】で、一般社団法人ヤングケアラー協会代表理事の宮崎成悟先生のお話を伺いました。実際にご自身が中学3年生の15歳からお母様の介護をするヤングケアラーとして日々の生活を送っていたそうですが、当時は当然そのような言葉は知らずに過ごされていたそうです。

宮崎先生のお話に先立って、世田谷区子ども・若者部の方から、区内小・中・高校生に対して行われた【ヤングケアラーに関する実態調査】結果の報告とともに、

そこから見える課題についてお話がありました。結果は自分が家族の世話をしていると回答した人が、小学生で17.7%、中学生で7.7%、高校生で4.9%となりました。ただし、小学生に関しては家族の世話＝お手伝いと考え回答している可能性から多少高くなっていると思われることや、回答率も20%前後であることからこれが全ての結果と思ってしまうのは少し違うかもしれないという前提はあるものの、中学生・高校生ではクラスに1～2人の割合であり、ヤングケアラーの現実はすぐそこまで来ていると感じました。世田谷区としてはこれらを踏まえ、今後子どもたちが子どもらしくいられる場所や支援、そして相談できる環境作りなど、子ども



の人権について普及啓発を行うことを検討課題としていくというお話でした。

引き続き宮崎先生の講演では、ご自身の経験によるお話がありました。当時は自分が今言われているヤングケアラーという自覚はなく、お母様の介護はご自身にとってあたり前なことであり、それにより学業が疎かになることや、友人や周りの人たちと疎遠になることは必然的なことであり、それらを辛いとか嫌だとはあまり思うことはなかったそうです。ただ、現状を周りの人間に知られることには抵抗があり、嘘をついての日々が嫌になり限られた仲間との繋がりが薄くなっていったこと、就職はしたけれどお母様から離れたことに罪悪感を覚えて結局離職してしまったことなどの中から、

お母様の病気を支援するボランティアの方を通じてヤングケアラーという言葉を知り、自分だけではなかったと知って現在のよう活動を始めようになったそうです。

これからのヤングケアラー支援方法としては、一人ひとりが抱える問題は全て違うことから、その支援も「点」ではなく「線」として捉えそのライフステージの変化に応じていく必要があるとのこと、そして何より周りの大人がその子どもとの信頼関係を築くことが大切であるというお話でした。

実体験をもとにされたお話には、その一つひとつに説得力と生きた言葉の力があり、その強い思いに「私たち大人にはきっと何か出来ることがある」、「何かできるように動いていこう」と思う時間となりました。お話の最後に「ヤングケアラーの周りにたくさんの支援の糸をたらしていこう」という言葉がありました。まずは今日講演を聞いた一人ひとりが支援の糸となって、地域のヤングケアラーだけでなくすべての子どもたちにとって頼れる存在となっていきたい、そのためにまず自分に出来ることは挨拶をすることなど、決して難しいことではなく、本当に身近なところにあるんだと感じました。

青少年砦地区委員研修部長 西村 幸子



お知らせ!!

親子でボールとあそぼう!開催します♪

令和5年1月29日(日)

場所:世田谷区総合運動場体育館

※イベントはすべて申込制です

申込書は砦まちづくりセンター、山野児童館

鎌田児童館にあります



ショートテニスや
ポッチャ体験コーナー
をやるよ!

